

おう ちよう  
小 槻 町

栖軽 「雷を石に縛る」

室町時代後期（一四七八―九九）の春日大社文書に「小槻庄」が領地として書かれ、さらに古い南都・西大寺の田園目録にも「ヲツク」と見えます。その後の慶長年間（一五九六―）に入ると「おつく村」「小槻ノヲツキ」などの地名が各種文書に登場します。いろいろ呼ばれたものの当地名は、室町時代に生まれていたと考えられています。

町の中央北部に春日神社が鎮座しています。三〇〇年余り前から村の氏神として祭られてきたことが確認される社で、境内に丸い山形の「雷よけ石」が立っています。むかし雄略天皇の命令で雷を捕らえた側人の小子部栖軽（ちいさこべのすがる）が、その「雷を縛りつけた石だ」という説話が伝わっています。この石が境内にあるお陰で当地には、落雷が古くから無かったという面白い言い伝えも残っています。

江戸時代に入ると「小槻村」の村名が定着し五條・郡山藩領となったあと、延宝七（一六七九）年から幕府領になります。明治二二年に真菅村の大字となり「檜原市小槻町」となったのが昭和三十一年一〇月です。平成二二年初頭の戸数が四四九戸、人口が一四四一人となっています。